

ペンテコステ礼拝（聖霊降臨日）

2024年5月19日(日) 午前10時30分
司式 牧師 姜 徑米
奏楽 佐藤裕子

前 奏

招 詞 詩 編 51編12～14節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エゼキエル書36章25～28節(旧1356)

ヨハネによる福音書 14章15～26節

(新197)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 500

説 教 「この霊を知っている」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 181

聖 餐 式

献 金

頌 栄 543

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

5月の祈り

復活の主の昇天とペンテコステの聖霊降臨を覚え、
今生きるキリストの体としての教会の歩みを確かな
ものとするができるように。

聖霊に導かれて礼拝が充実されるように。

祈禱会を重んじ、聖書の言葉に導かれる信仰生活
となるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわな
いである兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地
に平和がもたらされるように。

今日の祈り

聖霊降臨によって立てられた教会として、聖霊を
信じる信仰を確かめ深め、その恵みをわかまえるこ
とができるように。

世の霊を見分け、聖霊の導きを知り、祈り求める
ものとされるように。

愛する者を御許に委ねた者一人一人の悲しみが主
にあって慰められ癒されるように。

「この霊を知っている」高橋和人

ヨハネによる福音書14章15～26節

聖霊降臨の出来事は使徒言行録2章に記される。

ここで主は聖霊について教えている。主は弟子た
ちに別離を伝えた。主は父なる神のもとに行き、住
む所、場所を用意される。そこで、子なる神と父な
る神との関係が語られる。子は父の内におり、父が
子の内におられる。

主イエスは別離に際して、父から別の弁護者が遣
わされることを約束される。弁護者は真理の霊と呼
ばれ、聖霊を指す。聖霊を信じるにはこのお方の姿
を受け入れる必要がある。われらは聖霊の恵みを知

り、それを受けることができる。

弁護者は同伴者として永遠にわれらと一緒におら
れる。「あなたがと共におり、あなたがたの内にい
る」といわれる。主イエスは「あなたがたをみなし
ごにはしておかない」、そのために戻って来られる。

人は住みかを失い、みなしごとなる。失われて行
くものが人の姿だ。そこに神が関わってくださった。
空しさからの救いがもたらされた。それが分かるの
が信仰だ。

聖霊は、父と子が互いに内におられること、「あ
なたがた」が内にいることをもたらしてくださる。
父なる神と御子が共にわれらを内にいれてくださる。
そこに聖霊が関わられる。われらを内に入れて包み
こんでくださることを父、子、聖霊によって実現さ
れる。三つのお方によって確かに包まれる。

しかし、これは世の見方や価値観では受け入れら
れない。世は見ようとも知ろうともしない。見える
現実と数値に論理によってしか認められない。

父、子、聖霊なる神は新しい掟によってこの道と
真理を実現される。道と真理は御心とその方法。そ
れは愛の掟(13:34)として明らかにされた。

掟は契約によってもたらされた。人は神の民とな
り、神はその民の神となる(エゼキエル36:28、エ
レミヤ3:22)。愛の掟は父と子が結ばれ、子が弟子
たちと結ばれた仕方だ。この愛は父と子からくる。
人からではない。この愛は、世のもの、人間的な親
しさや結びつきではなく、それぞれが神を愛する(1
ペトロ1:8)ゆえに互いを愛する。

人間的な結びつきが神を見失わせる。われらの交
わりは、いつもそこに同伴者、弁護者が居られるこ
とを失ってはならない。主はこの霊をわれらが知っ
ていると言われる。今、この霊が与えられている。